

・・・子どもたちが身近に感じるEU



1 イギリスの衝撃

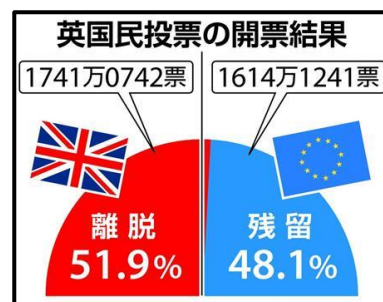
2016年6月、国民投票でイギリスがEUを離脱することを決めました。

このニュースを、あなたはどの受け止めましたか？

驚きましたか？

淡々と受けとめましたか？ 当然と思われたでしょうか？

それとも、「よくわからないけれど、ふ～ん、そうなのか」という感想だったでしょうか？ 多くの日本人にとっては、ヨーロッパは距離的にも遠く、最後の例のような感想が多かったかもしれません。



実は、私自身は、心の底から驚きました。まさか～～？？と。

その理由は単純です。教科書でEUを子どもたちに教え、説明しているうちに、いつしかEUは、正しいもの、理念として推進していくべきものという暗黙の私個人の理解ができていたせいだと思います。

「あれ、これから、EUをどのように教えていったらいいのだろう？ヨーロッパ統合は進歩だと思っていたけれど、当事者の人々にとってみるとそれは、違っていたのだろうか？？」
そういうとまどいです。

そして、このあと、この年の秋にはアメリカの大統領選でトランプ大統領が出現し、大きなショックを世界に与えています。イギリスのEU離脱の結論は、これから世界はどう変わっていくのかと、・・・混沌とした世界を予感させる一つのスタートにもなっていたようでした。

さて、イギリスの人々の結論が出てみると、果たして、EUはヨーロッパの人々にとってどういう価値があるものなのか？本当に役に立ち、ヨーロッパの人々が求めるものがあるのか？ 今度は疑問に思えてきます。

何が争点になっているのかも、気になってきます。

2 まず、EUと言えば、ユーロ、共通通貨でしょう？

ユーロは、有名な通貨なので、ドルと同じくらい、みんな子どもたちも知っています。同じユーロを使えば、ヨーロッパの国々で両替せずに、手数料もとられず、買い物ができる・・・それはとても便利なことで、海外旅行を日本人もするようになって、よく、知られてきていますね。

ただし、中学生にとっては、海外旅行はそれほど縁がないので、少し遠い話かもしれません。しかし一方で中学生はお金の話は大好きですし、簡単な言葉なので「ユーロ」はすぐに覚えてくれます。

こ 硬貨 **し 紙幣**

裏側は各国独自のデザインとなっていますが、共通して使えます。

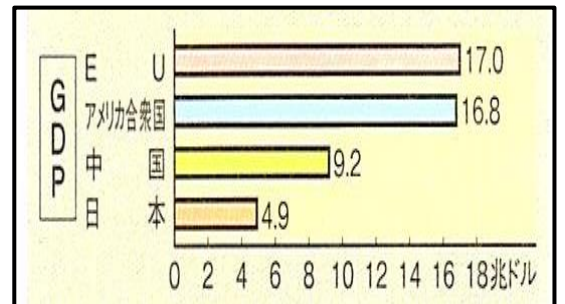


裏側のデザイン

				
ドイツ 国章である 鷲のマーク	フランス フランス革命の標語 「自由・平等・博愛」 の文字	イタリア 16世紀の芸術家 レオナルド・ダ・ヴィンチ の作品	オーストリア 18世紀の音楽家 モーツァルトの顔	スペイン 現在のスペイン 国王の顔

↑ ③ ユーロ紙幣と硬貨 EU加盟国の中には、イギリスやデンマーク、スウェーデンなど、ユーロを導入しないで独自の通貨を使っている国もあります。

← 教科書から ↓



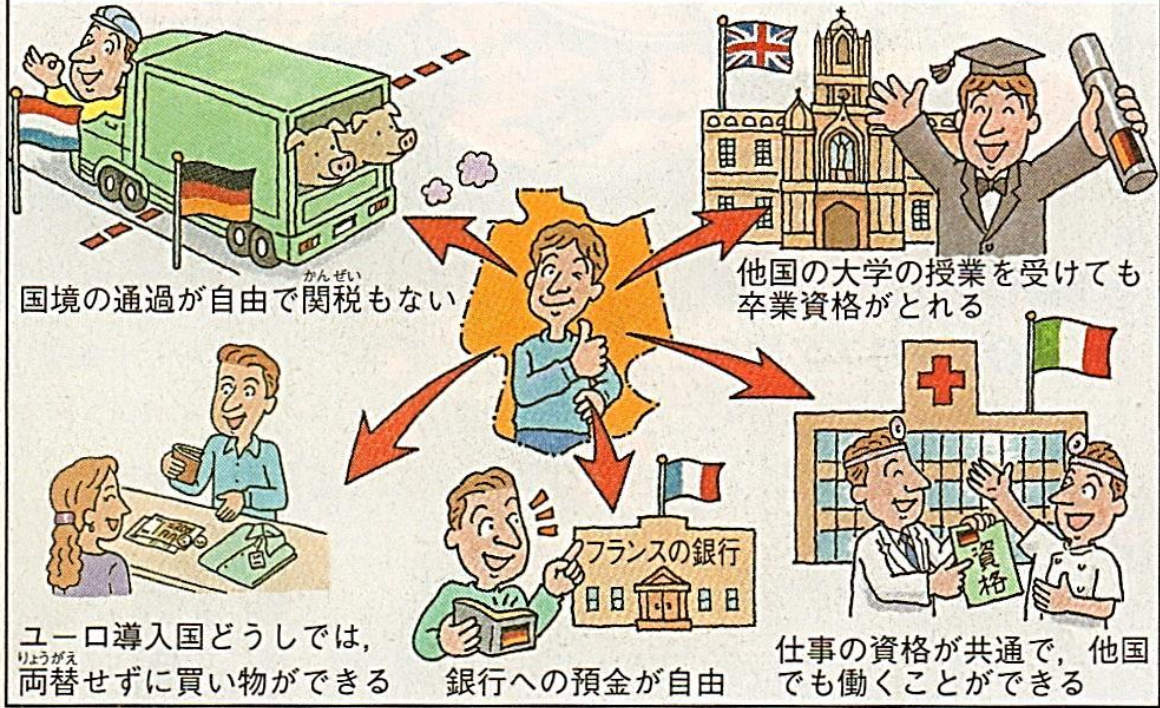
本物のユーロの硬貨があれば、これは鬼に金棒、実物教材の威力です。

そして、当然、このユーロのおかげで貿易も商売も旅行も、関係各国の間では、盛んになり、経済効果はとても大きいですね。

グラフにも出ている通り、GDPが表わす経済規模はアメリカをしのいでいます。

3 その他、その他の利点。

他にも、教科書では利点をいくつも挙げられています。わかりやすい次の図を見てください。



国境の通過が自由で関税もない

他国の大学の授業を受けても卒業資格がとれる

ユーロ導入国どうしでは、両替せずに買い物ができる

フランスの銀行 銀行への預金が自由

仕事の資格が共通で、他国でも働くことができる

この中で難しいのは、「関税」です。

(*しかし、この関税の問題は、貿易の中では必ず出てくる問題ですし、例えば、



ハリスの「日米修好通商条約の関税自主権の無い状態」や、「条約改正」の単元でも出てくるので、ていねいに説明して三年間の間に、場面場面で、何度も繰り返すとわかるようになります)

例えば、外国の製品を税金をかけずに輸入すると、買う人には安くて便利だけれども、日本の産業がつぶれてしまって、失業者が増えてしまう、そうならないために、外国の製品に手数料としての税金をかけて、少し高い値段で売るようにする、それが関税だと説明します。



今で言うと、オーストラリアのオージービーフ、スーパーでは安売りをしていますが、それでも約30%の関税がかかっています。その関税が無ければ、さらに数百円は安くなる値段ですね。

すべて「便利かどうか」という視点で考えると、前頁の図を見てよくわかるように、EU統合は、人々の交流が増え、移動の自由さが増し、商業が発達し、貿易も盛んになり、経済効果は増すばかり・・・そう考えられます。そこで、EUの歴史=ECからの出発、資源の共同管理や経済協力から始め、利点については、こうした説明をていねいにしました。

また、最近の問題点についても、移民・難民の流入、それによる不安、テロの頻発、国外へ企業が生産拠点を移し、失業者の増加や企業倒産の危険性・・・などを説明しました。

4 先が見えないからこそ、討論しよう。



EUの離脱を決めてからのイギリスは、混乱を極めていました。

例えば、国民投票以前、離脱派の国会議員が、イギリスの利益を守るためには離脱しかないと主張し国民に迫っている様子を、ニュースでも見ました。ところが、離脱が決まったとたんに、ジョン・ボリス元ロンドン市長をはじめ、離脱派の有名な政治家たちが、あきれることに、なんと首相の座を前に逃げ出し、最後には、今までニュースには登場したことのなかったメイ首相がその座に着きました。

そして、今も(2017年4月)、イギリスは即座にEUをやめると動き出してはいません。少しずつ手順を踏んでいるように見えて、イギリスが利害を失わないように、交渉の中で、さまざまな今までの利益を生かそうと模索しているようです。



さて、10年後EUはどうなっているか。50年後EUはどうなっているか。みなさんはどう思いますか。

EUは加盟国を増やし、さらに広がっているだろうか？それとも、加盟国がバラバラになって、EUは消滅しているだろうか？

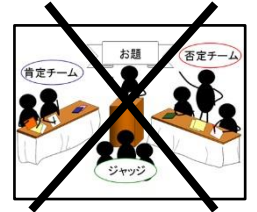
とても簡単に予測はつかないと、私は思いましたがどうでしょうか？

こんな予測がつかない未来だからこそ、「EU離脱に賛成か反対か」子どもたちに討論してもらおう、EUの問題は、やがて日本にもかかわってくる問題だろうから・・・そう考えて討論の授業をしました。



討論の授業は子どもたちも大好きです。視聴覚教材よりも体験教材よりも、よく覚えていて印象的だという子どもたちもいるくらいです。今回の討論は、その楽しさを交えて、むずかしいEUを理解できるようにと考えた苦肉の策でもありました。

私が授業で行う討論の授業はディベートとは違います。まず勝負の判定は無し。



目的は、子どもたちの考えや概念を揺さぶること、つまり、改めてほんとうにそうだろうか？ 他の視点から見ると、どう見えるのかを知ること。

ゆさぶられてこそ、自分とは違う意見を持つ人々がいることを知ります。

そして立場の違いが分かるようになっていきます。今まで自分で考えたことのないような意見を持っている人が同じクラスにいることを知って、驚くこともあるでしょう。

そして、自分の考えを揺さぶられてこそ、事実について、さらに深い理解ができるようになります。ですから、自分の意見を言うことだけでなく、相手側の意見をよく聞くこと、それが大切だと思っています。

実際に討論してみると、今回も、私の予想外の意見も出てきて、考えさせられることがたくさんありました。

5 EU離脱派はどういう意見？ EU残留派はどういう意見？

討論をするためには、離脱派の人々の意見と残留派の人々の意見を正確に知る必要があります。
*この時、教育の現場の中で使われるディベートの場合、子どもたち自身で資料を調べることになっていますが、これは、往々にして、子どもたちの手に余る場合が多いので、私が整理した物をプリントとして出します。

理由は、概念を揺さぶることが大事なので、意見の違い、対立を鮮明にする形で、まとめておくのです。(テーマを選ぶ場合も違いを鮮明にするものを選びます)

今回のプリントは、次のようにまとめました。

あなたはどちら？EU 離脱・YES 派？NO 派？

もし、あなたがイギリス人なら、これからの仕事・自分の国、未来を考えてどちらを選ぶ？

	EU 離脱賛成 YES 派	EU 離脱反対 NO 派
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・関税有り・移動の自由はなし ・自国の産業を守れる ・失業を減らせる ・テロ、犯罪を減らせる ・ほかのEUの国を援助しなくていい ・難民を入らないように制限できる ・自分の国を中心に考えられる ・福祉のお金がふえずに済む ・国どうしの格差を考えずに済む ・自国の文化も守れる ・自国で決められる。 ・貿易も自国に有利にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関税なし・移動の自由有り ・パスポート不要 ・両替いらない ・いろいろな国に行くことができ、住むところ、行く大学仕事も選べる ・交流ができる ・人手不足にならない ・市場(経済・人口)が大きい ・企業はEUの巨大な市場でたくさんもうかる ・難民の人々も助けることができ、国際的になる

さて、あなたはどちらを選びますか？あなたの考えを書いてみてください。

イギリスはEUを離脱したほうがいいのか、しない方がいいか？

さて、子どもたちの討論は、どう進んだでしょうか？

最初、1クラスめで討論した時、盛り上がった論点は、
「テロを防げないならば、経済的に豊かになったって仕方ない。死ぬのが怖いから、難民を受け入れるEUは、やめるしかない」

一方、EUに残るとい意見の子どもたちは、
「EUでまとまった方が有利だし、便利だからやめない方がいい」

1クラスめの討論では、プリントに書いてある理由を、そのまま意見として述べた子どもたちが多く、それにどうやって反論していったらいいのか？他の子どもたちはとまどっていました。討論に熱中する子がいる一方で、半分くらいの子どもたちにとっては、その表情を見ると「頭の上を、意見が飛びかっている」・・・それをながめているようす・・・というような討論でした。

そこで、一人一人が自分ならという考えを鮮明にするために、次のような「イギリス人の立場だったら」という条件も加えたプリントにしました。より具体的に、自分が学生だったら、会社員だったら、という意見が増えて、わかりやすいものになったと思います。

あなたがこんな立場だったらどちらを選ぶか？

YES 派

- ①これから就職先を選ぶのだが、企業の求人が少なく、就職できるか不安
- ②市内に住む難民の人々がふえてきて、彼らだけで固まっているようすが気になる
- ③テロが国内で増えてきて、いつ何が起きるか不安に思う
- ④税金が毎年高くなってきて、福祉にお金がかかるようになった
- ⑤自動車産業に勤めていたが、会社が工場を他の国に移して、失業してしまった。

NO 派

- ①これから大学を選ぶ高校生、行きたい海外の大学がある。
- ②夏には大学生の間に、ヨーロッパ中を、見て歩く旅行を計画中。
- ③EUの中で、海外との交流する仕事、貿易関係の仕事をしたと思っている
- ④スマートホン関連の企業の社長で、EU各国の人々に大量生産して売る予定
- ⑤自動車関連の企業の社員で、EUの各国に自動車工場を建てる計画をしてきた

よく考えて上の(前頁の)四角にどちらか選びチェックを入れよう。

討論を終えてあなたの考えを書く。討論の中で、わからないことがわかるようになってきたら very good!! 最後に投票しよう。

討論をしている時、どちらの意見を言っているのかわかるように、座る位置を変えます。真ん中で分けて、半分を離脱賛成、半分を離脱反対にし、真ん中で向き合って座ります。そして、討論するようにしました。(数が半数にならなくても大まかに移動して、向き合ってイスに座ります)

さて、各クラスでEU離脱に賛成、反対の人数は、どちらが多かったと思いますか？

教卓

離脱に

YES

離脱に

NO

実際にイギリス人が離脱を決めているので、当然、そういう意見の方が多数を占めると思っていました。私の推理とは違う結果でした。

	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組
討論前離脱派	24/33	13/33	12/33	14/33	10/33	16/33	10/33
討論後も離脱派	17	14	15	15	11	15	9

1クラス以外の6クラスは、討論前、自分の立場を、EUをやめない方が良く、残留を選びました。多いクラスでは三分の二の20人以上が離脱反対。それでも、約半数ぐらいずつには、人数が分かれたので、討論は白熱しました。

6 EU離脱賛成・反対、それぞれの立場の子どもたちが考えた理由

離脱賛成派は、

「やっぱり、命が大切だから、どんなに豊かになれるとしても、テロが増えるのは困るから、EUのままで難民が増えるのは困る」

「でも、ヨーロッパの中で、まとまるのは大切だと思う。貿易にも有利だし、自由に行き来ができるんだから、商売も盛り上がるし、やっぱりEUのままの方がいいと思う」

「じゃあ、テロが起きたらどうするんですか？死んじゃうんですよ。命は大切でしょう？」

(…討論で、意見をかみ合わせようとする、言おうとしていた子が言えなくなったりするので、無理に論理を反対意見として組み立てることはしません。)

それでも、15~20分くらいしていると同じ意見が繰り返されて、論点が整理されていくようになります。

有力な意見が出てきて「ホオーっ」と言う感嘆の声で、あっという間に討論が終わりそうになる時もあります。そういう場合はそういう納得できる子の意見へ、教師の私が反対意見を言って（反対の立場の子どもたちの席に近づいて立ち）、少々挑発します。

少数意見が多数意見に圧倒されそうな時も、私は少数意見に入って、挑発します。

或いはこちらと思ったらあちらと、変幻自在な立場を取り、それぞれの意見を揺さぶったりします。そうすればそうするほど、どの子どもたちも、反論しようとして一生懸命考えます。結果的にいろいろな側面が出てきます)

私「でも、テロって、毎日起こるものではないでしょう？だから、経済が豊かな方が大事じゃない？」

……そうだそうだの声。

「でも、巻き込まれたら、一瞬で命が無くなるじゃないですか、やっぱりそういう危険性は少しでも国の中から無くなってほしいと思うのが普通だと思います。」

……同じ意見が続いたあと、…

私「テロのことじゃなくてもいいんだよ、他に意見は？」

「僕は、やっぱり留学が自由に外国にも行けるというのがいいと思う。いろんな国で学んで、いろんな国で働けるって、自由でいいなと思う」

「でも、その分、他の国から来た人の分までお金がかかっているんじゃないかと思うし、余計にお金が必要になるんじゃないかな」

「企業ももうかるし、経済が豊かになるなら、協力し合った方がいいんじゃないかな」

「でも、赤字のEUの他の国を援助するお金をイギリスは払わなくちゃならないんですよ。失業者が出ているくらいなら、まず、自分の国民のことを考えてそっちにお金を使うべきじゃないんですか。無理ですよ。他の国の面倒を見るなんて」

「でも、やっぱり、テロも増えるし、EUから抜けて自分の国のことは自分で決められるようにした方がいいと思います。」

「でも、テロだって、EUの中で、協力して防いだ方が有利なんじゃないですか？」

……多少堂々めぐりを始めたところで、

私「最後に意見を言いたい人いますか？」と聞いて、

手を挙げた数人に立ってもらいます。そして、このメンバーに、最後意見を言ってもらって終わりにします。

[特に勝ち負けを判定せず、まとめることもしません。今回以外は意見が変わった人は、席を移動します。移動する人数が多ければ説得力があったのだと子どもたちは喜びます。]

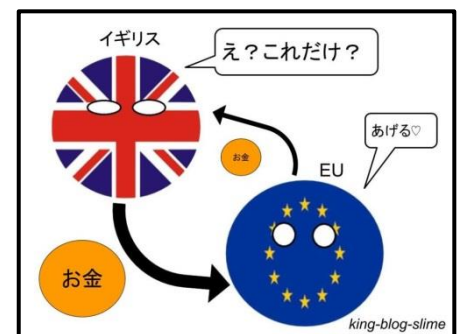
その後、感想をノートに書く形で終わりにします。あとで感想を読むと、いろいろな意見があって驚いている子がたくさんいます。

今回は、せっかくなので、国民投票にならって段ボール箱の投票箱に、YES or NO の投票してもらい、意見の変化を確認しました。

投票での結果は……これも明らかに9クラス中8クラスが残留を選びました。

意見が変わった子どもたちは、数人でした。

なぜか？ 私の推理はこうです。



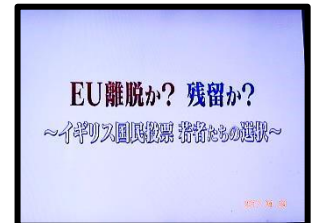
中学生たちは分かれることよりもまとまることを良しとする学校文化・クラス・日本人の思考回路を身に着けているため、利害の対立でEUから分離するよりも、EUをまとまりとして、「争いよりも平和」ととらえたのではないかと思います。

意外だと思われると思いますが、「離脱」を選んだ子どもたちは、弁が立ち、賢くて利益に聡い男の子たちが多かったようです。EU分担金のような自分の国の利益にならないようなお金は、使う必要が無いと強かに主張していました。

イギリスでは、こうした意見を人々が聞いて、離脱を選んだわけですが、日本の中学生たちはそうした論理にあまり左右されずに、残留を選んだわけです。

7 まとめは、当時のニュース映像で。

討論後、EUからの離脱を選んだイギリスについて、NHKのニュース番組を使ってまとめました。(BS1「ドキュメンタリーWAVE」)
この番組は、国民投票直前、1週間前の報道番組です。



なかなか国民投票の投票率が上がらない・・・、上がれば、残留が有利になるだろうと言われている中で、若者たちが離脱・残留、それぞれの意見を広める活動を行っていて、その活動に焦点を当てて取材したものです。

結果はもう出ているので、どうだろうか？と録画してあった映像を見なおしたところ、活動しているのが大学生たち、そして、なぜ彼らが賛成、或いは反対しているのか、わかりやすく映像にまとめられていて、優れた教材になると確信しました。

例えば、離脱を求める大学生の主張

- ・自分の地区で半数程度が移民であり、失業率の上昇の原因は移民ではないか
- ・移民に対しても手厚い福祉が行なわれていて赤字の原因になっている。
- ・EU 分担金の出費をホームレスの人々の保護などに向けるべき

残留派の大学生の主張

- ・EU の留学制度を利用し、イタリア留学できた
- ・卒業後もブリュッセルで就職しようと考えている
- ・大学の教授も EU 出身が多いために、大学の閉鎖も考えられる

さらに、番組は、移民の人々にも取材しています。

- ・ポーランド移民で建設業に従事する人々＝追い出されるのではないかと不安。
- ・建設会社社長イギリス人＝労働者がいなくなれば、会社が倒産してしまう！

また、イギリスに進出している日立の新幹線工場のようなすも出てきて、もし EU を離脱すれば、関税の関係から、ヨーロッパ(ドイツやフランス)に、工場の拠点を移すかもしれない点も解説しています。こうして日本にも関わることを伝えています。

そして、若者がパネリストの小討論会のようすも出ていました。討論をしているようすを見て、中学生たちは、自分たちの討論を重ねて見るだろう。そして、参加者の年齢の近さや賢明さ、論旨を身近に感じるだろうと思えました。



最後に、投票直前で動揺しているイギリス社会のようすも描いています。

直前の大事件：残留派の女性国会議員ジョー・コックスさん(弱者の立場に立ち、さまざまな支援活動をしていた)が射殺される事件の事です。1週間前に離脱賛成派の男性が彼女を射殺。さらに、国会議員の中でも、憎悪の念をぶつけあったりして、過熱し緊迫した情勢が最後に報告されています。



子どもたちは、自分たちが討論で話し合ったテーマを巡って、これほどイギリスが混乱し対立していたのかと驚き、似た意見を述べる大学生たちに共感しました。

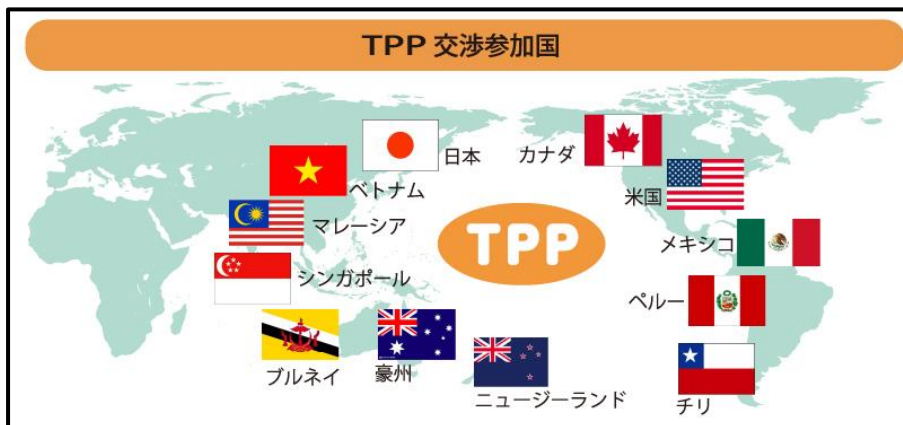
また、大学生たちが挙げた理由や状況の説明を聞いて、子どもたちの認識も深まっていったことが、授業をしていてわかりました。

8 日本はどうか？

ニュース映像を見て、その緊迫感が伝わったことは確かでしたが、私には「仲良くやっていった方がいい。だから EU を抜けない方がいい」そう理由を考えている中学生たちを、最後に本当にそうだろうか、と揺さぶりたくなりました。

そこで、日本の場合を例に出して説明し、投げかけました。私「さて、みんな、イギリスのことは関係ないと思っているかもしれませんが、ほとんど同じ問題が日本にも起こりつつあります。

まず、関税のことだけれど、話題の TPP は、関税をゼロに近づけようという考えかただし、EU のやっていることを、経済上はもうすでにやろうとしている…そういうこと。



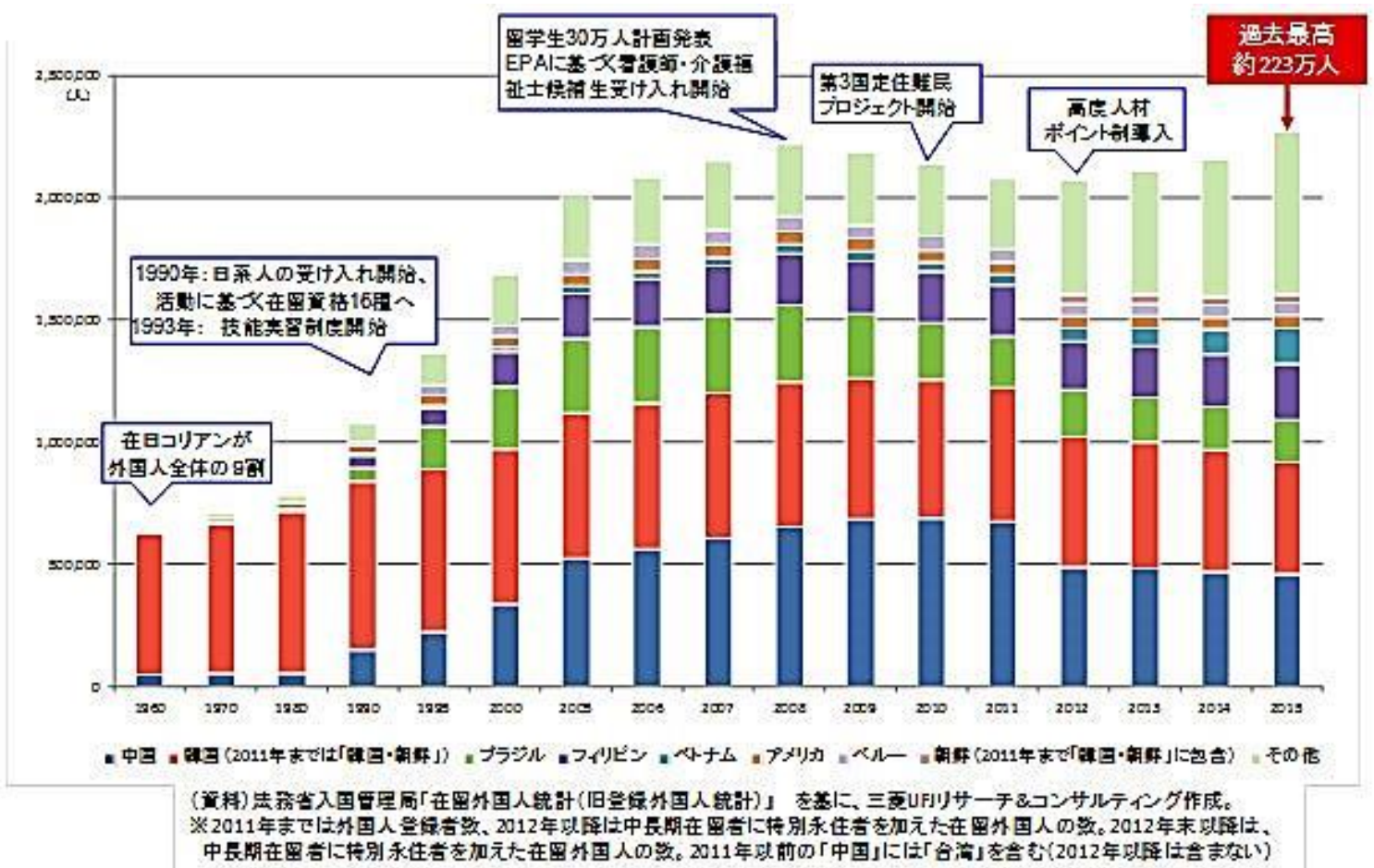
それから、移民の問題なのだけど、日本では30年後には1億人を割るほど人口が減ってしまう…とされている。

つまりこのままだと、例えば、人手不足でコンビニが今よりものすごく減ってこの地域に1つしかなくなる…とか。店員さんも減って、列に並んでもなかなか買えない…。ファミレスに行っても、店員さん不足で、なかなか注文を聞きに来てくれない。電車も運転手が足りなくて、本数が減る…そんなふうには全部、問題が出てくるかもしれない。

実際に、今24時間営業をやめようとコンビニが動きはじめてるし、宅急便も夜の配達や再配達をしなくなるかもしれないと言始めている。外国の人々が日本にやってきて、移民として住んでくれないと、働いてくれないと、社会が成り立たなくなるかも…。

テレビで言っていたよね。番組の中の討論会で…。イギリスに東欧などから入ってきている移民の人たちが230万人、スペインなどへ老後の生活をしたいと移住した人210万人。

日本でも、この間、在留外国人の数を言っていたけど…
今、外国の人々が、日本で暮らしていますけれど、どのくらい的人数が、日本で暮らしているのでしょうか？



なんと、220万人だそうです。私は、これを聞いて、それこそ「ぶったまげた！」(失礼！)

EUと変わらない状況があるわけ。

実際に、政府は毎年 20 万人ずつぐらい外国人を受け入れたらという計画を持っているらしいですよ。そうすれば、日本経済は維持できる…？。

だから、将来は、日本でも教室の中に国籍は日本人だけれど、顔の形も様々、目の色肌の色もさまざま、或いはあなたたちも外国から来た人々と結婚したり家族になったりすることも出てくるかもしれない。

さて、ここで考えよう。今は北朝鮮の問題や中国・韓国と領土問題などで、アジアの国々となかなかうまくいっていないところがあるけれど、将来、50 年後、あるいは 100 年後ぐらい先の話、日本もアジアの国々と EU のような組織を作った方がいいだろうか、そうでない方がいいだろうか？

未来のことはだれも予測ができない…だから自分の考え・意見を書いて終わりにしましょう」

さて、あなたが考える未来の日本像、EU の姿はどんなものでしょうか？

こうして私に揺さぶられた中学生たちは、日本は EU のようになった方がいい、ならなくていい…ずいぶん迷っていました。

移民との摩擦を考える子、北朝鮮や中国との緊張が頭から離れない子、そういう子たちは、やはり自分のこととなると、多少排外的になる。

そういう子たちが多いのは予想していましたし、「自分のことは別にして」や、「変化を嫌う」そういう子どもたちの考えは当然とも思いましたが、一方で、今の現状とは関係なく、平和と共存の考え方・或いは経済の有利さから EU の形をとった方がいいという意見を書いた子たちも、各クラスに 10 名近い人数がいて、子どもたちの考え方の幅の広さを、つくづく実感しました。

私自身は、どちらがいいのか、はっきりとはわかりません。

客観的にみると、資本の力はグローバル化、そして市場の巨大化や流動性を求めて、その中から巨大な利益を得ようとしている……。

だからこそ、日本も EU のような存在を求めているように、そして TPP を進めようとしている……そのように思えます。

勝ち残るためには、そして、その巨大な利益を得てこそ、日本人も、一人一人の個人も、分け前にありつくことができる……。実際に今の日本で、都市や多国籍企業が利益を生みだし、地域や農村に還元している……そんな状況があるように思いますが、どうなのだろうか……。

こうして巨大な市場を求める方向性で人々は利益を得ることができるのだろうか？

幸せになれるだろうか？

しかし、利益を一番得るのも、巨大資本のように思いますし、その損益をこうむるのは弱い立場の一般の人々ではないかとも直感的に思います。



迷う一方で、すべてにおいて・・・それは産業と貿易と情報と・・・多くの物が地球規模で動いているのを見ると(資本だけではなく、人々も、労働力も、より良い賃金、より良い生活環境を求めて、或いは戦争を逃れ、貧困を逃れようとして人々が移動する、情報を一般の人々も得て権力を監視することもできる・・・そうしたこの怖いほどの変化のスピードの中で、人々が流動する勢いの中では・・・)、それは止められないようにも思います。

イギリスの EU 離脱が、イギリスにとって、得か損かも、すぐには結論が出ず、今から 20 年後くらいに、多少測れるようになるか・・・という具合ではないでしょうか？

しかし、わからない未来について、予測し、情報を得、考えることは、子どもたちの未来を考えるうえでも、とても大事なことだと思います。

自分に関係ない、難しいことだと思っけていても、未来だからわからないからこそ、討論できるし、関心を持つことができれば、その後に役に立つと言えるのではないかと、私自身が痛感した授業となりました。

その後のエピソードですが、このことでニュースを見て親御さんと話をした子どもたちも多く、親に驚かれたと、ニコニコ話してくれた女子もいました。

さて、みなさんも EU と将来の日本について、
考えを少しでも巡らせることができたでしょうか？



EU の授業

ねらい

- ①EU について理解を深める。
- ②EU の利点、問題点は、日本の将来にも共通することを知る。
- ③世界の動きについて、特に経済と人の流れの情報に関心を持つ。

授業構成

- ①EU について理解する。

- ・ EU の歴史＝EC の発足、ドイツフランスの体験、資源の共同管理

経済協力、平和のために

- ・ EU の利点＝市場の巨大さ、経済規模の拡大、人的交流、政治でも・・・。

- ・ EU の問題点＝各国の経済格差、EU 分担金と EU の求める緊縮財政

難民流入、テロの頻発、各国の独自性は？

- ②EU からの離脱について、イギリス人になったつもりで討論しよう。

- ③実際のイギリスのようすはどうだったか。ニュースを見て知ろう。

- ④日本の将来に EU はどう関わるか考えよう。